

## 高齢日本人集団の潜在性甲状腺機能低下症における顕性甲状腺機能低下症への進展リスク<sup>§</sup>

### Risk for Progression to Overt Hypothyroidism in an Elderly Japanese Population with Subclinical Hypothyroidism

今泉美彩 世羅至子 植木郁子 堀江一郎 安藤隆雄 宇佐俊郎 市丸晋一郎  
中島栄二 飛田あゆみ 早田みどり 富永 丹 芦澤潔人 前田蓮十 長瀧重信  
赤星正純

#### 要約

**背景** 潜在性甲状腺機能低下症患者の甲状腺機能の経時変化に関して、地域住民を対象とした研究はほとんどない。我々は、同一の高齢日本人集団の潜在性甲状腺機能低下症患者と甲状腺機能正常対照者において、顕性甲状腺機能低下症への進展リスクを比較した。また、潜在性甲状腺機能低下症患者群と甲状腺機能正常者群において、顕性甲状腺機能低下症への進展に関連する幾つかのパラメータとの関係も検討した。

**方法** 我々は日本人原爆被爆者コホートにおいて、2000年から2003年のベースライン検査で甲状腺刺激ホルモン(TSH)と遊離サイロキシン(T4)を測定し、71人の潜在性甲状腺機能低下症患者(甲状腺治療歴がなく、遊離T4が正常、かつTSH >4.5 mIU/L、平均年齢70歳)と562人の甲状腺機能正常対照者を同定した。更に、平均4.2(1.9-6.9)年後にTSHと遊離T4値を再測定した。

**結果** 年齢と性を調整すると、顕性甲状腺機能低下症への進展リスクは、潜在性甲状腺機能低下症患者(7.0%)では対照者(1.6%)に比べ有意に高かった(オッズ比4.56、 $p = 0.009$ )。年齢、性、抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体、超音波所見を含む多変量解析においては、ベースラインTSH値が高いほど、潜在性から顕性甲状腺機能低下症への進展に関連していた( $p = 0.02$ )。2値のTSH値を用いた解析では、TSH >8 mIU/Lが顕性甲状腺機能低下症への進展を予測する値であることが示唆された( $p = 0.005$ )。一方、38人(53.5%)の潜在性甲状腺機能低下症患者において、血清TSH値は自然に正常化した。多変量解析では、より低いベースラインTSH値( $p = 0.004$ )と、

<sup>§</sup> 本報告書は *Thyroid* 2011; 21(11):1177-82 (doi:10.1089/thy.2010.0411) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。

---

甲状腺超音波所見における正常で均一なエコー輝度 ( $p = 0.04$ ) が TSH 値の正常化に関連していた。原爆放射線量は潜在性甲状腺機能低下症およびその経過には関連していなかった。

**結論** 同一の日本人高齢者集団において、潜在性甲状腺機能低下症は甲状腺機能正常対照に比べ 4 倍ほど顕性甲状腺機能低下症への進展に関連しているようであった。平均 4.2 年後のフォローアップでは、患者の半数で TSH 値が自然に正常化した。ベースライン TSH 値と甲状腺超音波所見は、潜在性甲状腺機能低下症の将来の甲状腺機能を予測する指標になる可能性がある。